

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第49週 (12月4～10日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	233	13773
<b>[3類]</b>		
コレラ		2
細菌性赤痢	2	44
腸管出血性大腸菌感染症	38	3694
腸チフス	1	37
パラチフス		9
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	9	509
A型肝炎		50
エキノкокクス症		13
エムボックス <sup>1)</sup>	1	220
オウム病		8
回帰熱	1	22
コクシジオイデス症		4
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群		131
チクングニア熱		7
つつが虫病	46	353
デング熱	3	166
日本紅斑熱	2	502
日本脳炎		6
ブルセラ症		2
マラリア	2	34
ライム病		29
レジオネラ症	34	2158
レプトスピラ症		49
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	9	457
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>		226
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	28	1980
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>		53
急性脳炎 <sup>5)</sup>	14	581
クリプトスポリジウム症	1	12
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	152
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21	837
後天性免疫不全症候群	11	874
ジアルジア症		36
侵襲性インフルエンザ菌感染症	11	512
侵襲性髄膜炎菌感染症		16
侵襲性肺炎球菌感染症	50	1757
水痘(入院例に限る)	11	376
梅毒	192	14088
播種性クリプトкокクス症	1	158
破傷風	1	101
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	113
百日咳	29	952
風しん		11
麻疹	2	27
薬剤耐性アシネトバクター感染症		14

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	166690	33.72
新型コロナウイルス感染症	17379	3.52
RSウイルス感染症	161	0.05
咽頭結膜熱	10947	3.48
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15196	4.83
感染性胃腸炎	18993	6.04
水痘	431	0.14
手足口病	1441	0.46
伝染性紅斑	36	0.01
突発性発しん	653	0.21
ヘルパンギーナ	189	0.06
流行性耳下腺炎	85	0.03
急性出血性結膜炎	9	0.01
流行性角結膜炎	742	1.06
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	9	0.02
無菌性髄膜炎	13	0.03
マイコプラズマ肺炎	46	0.10
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	1	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス) <sup>9)</sup>	2	0.00
インフルエンザ(入院患者)	1288	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1468	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	北海道、宮城、大分
新型コロナウイルス感染症	▲	北海道、山梨、長野
RSウイルス感染症	▼	北海道、山形、富山
咽頭結膜熱	▼	福井、北海道、富山
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、宮崎、千葉
感染性胃腸炎	▲	大分、熊本、香川
手足口病	▼	宮崎、秋田、鹿児島
伝染性紅斑	▼	沖縄、石川、鳥取
ヘルパンギーナ	▼	富山、岩手、徳島
流行性耳下腺炎	▼	岐阜、秋田、滋賀、兵庫、岡山、大分
マイコプラズマ肺炎	▲	福井、富山、高知

### ◆炭疽(ザンビア共和国)

11月1日、ザンビア共和国の国際保健規則(IHR2005)に基づく連絡窓口はWHOにヒトにおける炭疽の発生を通知した。最初の感染例は、5月に南部地区デングザ診療所から報告された。同時期に周辺地域で家畜(ウシとヤギ)、野生動物(カバ)が原因不明で死亡したと報告されている。